

## 実施概要

対象 大学、短大建築系学生卒業設計作品  
 賞 最優秀賞：1作品 優秀賞：2作品 審査員特別賞：3作品 埼玉賞：1作品  
 作品展示 平成20年4月4日～平成20年4月20日（埼玉会館 第3展示場）  
 審査 平成20年4月20日  
 表彰式 平成20年4月20日（埼玉会館第3展示場）  
 審査委員長 日本工業大学 伊藤庸一先生

### ■特別審査員

日本工業大学（審査委員長）	伊藤 庸一 先生
〃	足立 真 先生
芝浦工業大学	衣袋 洋一 先生
東洋大学	篠崎 正彦 先生
東京理科大学	山名 善之 先生
東京電機大学	山本 圭介 先生
工学院大学	澤岡 清秀 先生
共栄短期大学	六反田千恵 先生
武蔵野美術大学	源 愛日児 先生
ものつくり大学	横山 普一 先生
埼玉県公営企業管理者 （社）日本建築学会	樋口 和男 幹事
埼玉県都市整備部建築指導課 （社）日本建築学会	新藤 巧 副課長 市川 毅 支所長
J I A 埼玉	倉島 和弥 理事
清水建設(株)関東支店 設計部	佐波 俊二 部長

### ■一般審査員

協会会長	桑子 喬
協会副会長	大川 紀夫
〃	梶 芳晴
相談役	高岡 敏夫
〃	片渕 重幸
特別委員会委員長	井上 忠孝
〃 副会長	田中 芳樹
特別委員会委員	金子 信弘
〃	高梨 久雄
〃	山田 慎一
〃	松下 充孝
〃	木川 元守
〃	村山 隆之

### 主催 協賛 後援 賛助

(主催) (社)埼玉建築設計監理協会  
 (協賛) (社)日本建築学会埼玉支所 (社)日本建築家協会 J I A 埼玉 (社)埼玉県建設業協会  
 (財)埼玉住宅検査センター 総合資格学院  
 (後援) 埼玉県 テレビ埼玉  
 (賛助) 下表参照

### ■協賛会社（順不同）

(社)埼玉県建設業協会 (社)日本建築学会 J I A 埼玉 (財)さいたま住宅検査センター  
 清水建設(株) (株)竹中工務店 大成建設(株) 小川工業(株) スミダ工業(株)  
 大野建設(株) (株)田中工務店 吾妻工業(株) (株)佐伯工務店 (株)八洲電業社  
 (株)蓮見工務店 (株)オキナヤ 生和テクノス(株) (株)サンプラント 大和リース(株)  
 ロンシール工業(株) (株)北雄産業 TOTO(株) 三協立山アルミ(株) 関東防水(株)  
 総合資格学院 大宮校、越谷校、川越校

## 出品作品・審査結果

最優秀賞	井上由美子	武蔵野美術大学建築学科 少しずつ変わること ～object－skin～
埼玉賞	藤田季愛	共栄学園短期大学住居学科 ダイドコロ
優秀賞	村口勇太	工学院大学都市デザイン学科 Noblesse Oblige
〃	大塚隆平	共栄学園短期大学住居学科 Self Organization
審査員特別賞	森田真	東洋大学建築学科 境界という見えないカベ
〃	秋山友里	東京理科大学建築学科 建築の手紙 一蟻の巣住宅 暗黙の法則一
〃	堀内翔	東京理科大学建築学科 大之中之小
奨励賞	坪井猛	芝浦工業大学環境システム学科 ちいさなうたかたを生む街 ～境界が消える時～
〃	小松正樹	芝浦工業大学環境システム学科 The moment was bom
〃	吉田琢哉	芝浦工業大学環境システム学科 アド街ック渋谷物語
〃	古川明広	東洋大学建築学科 「nLDKYの生活始めませんか？」みんなで建築家
〃	岸田繁高	日本工業大学建築学科 木場の「層・想」に住む く都市をイキイキさせる複合施設
〃	後藤裕行	日本工業大学建築学科 Repetition 一つながる空間一
〃	富谷広宣	日本工業大学建築学科 Vivid Garden 一都市から派生する庭一
〃	篠田沙織	共栄学園短期大学住居学科 Amorphous
〃	安井慎治	東京理科大学建築学科 通りすがりの郵便局
〃	棚橋哉仁	工学院大学都市デザイン学科 日常の原空間
〃	中島遼	東京電機大学建築学科 最後の距離感
〃	山下亮	東京電機大学建築学科 過密都市 ～現代 nomads への山谷的提案～
〃	武田慎平	東京電機大学建築学科 CHIKEI ームラのあるケンチクー
〃	谷田貝裕司	ものづくり大学建設技能工芸学科 鴻巣駅東口A3街区緑地帯整備
〃	三品俊一	ものづくり大学建設技能工芸学科 Station Renaissance
〃	森田哲朗	ものづくり大学建設技能工芸学科 WALK ON BY

(順不同)

最優秀賞 井上 由美子 武蔵野美術大学建築学科  
 少しずつ変わること ～ object — skin ～



建築の表層とは、どの様なものかを確認するための実験を行った。始めに、箱型のスキンを想定し、裂け目を入れ内側にだけ折込むという操作を繰り返した。できた形態に異なるスケール、プログラムを組み合わせ結果、1つの小劇場とした。

この実験では、objectから建築になるまでのプロセスを大事にし、表層というものを自分なりに定義することを卒制とした。



埼玉賞 藤田 季愛  
ガイドコロ

共栄学園短期大学住居学科

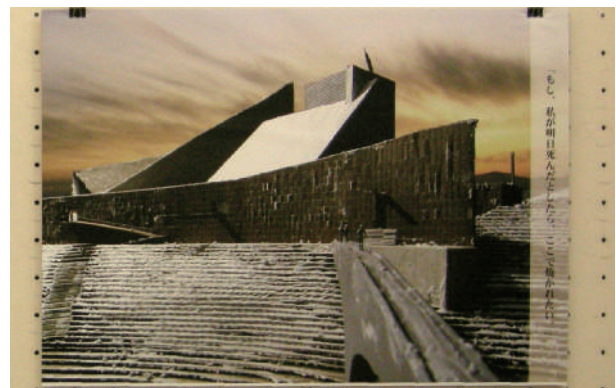


加須駅前の食を中心とするハウジングプロジェクト。食の文化を媒介とした、ヒトとヒトとの繋がりを形成する。生活していくために助け合いが必要であるヒトがガイドコロを共有した新しいカタチのカゾクを創造する集合住宅の提案。集まって住み、地元の農産物によって地域の文化をつくる楽しく住むための場所。



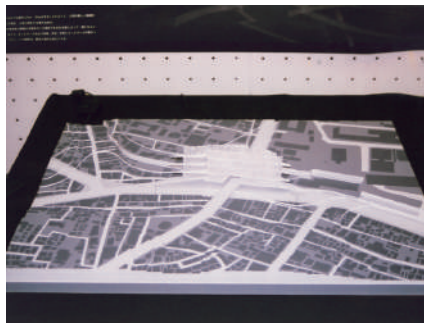
優秀賞 村口 勇太 工学院大学建築都市デザイン学科  
Noblesse oblige

卒業設計というこの一生に一度の機会を利用して、自分が好きなものづくりについて、または「建築をつくること」はどういうことなのか？自分に問いただしてみた。もし今、自分が死んでいると仮定した時、最後に「火葬」という儀式をもって自分を見送ってくれる風景を描いてみた。そのとき見送ってくれるみんなのために。



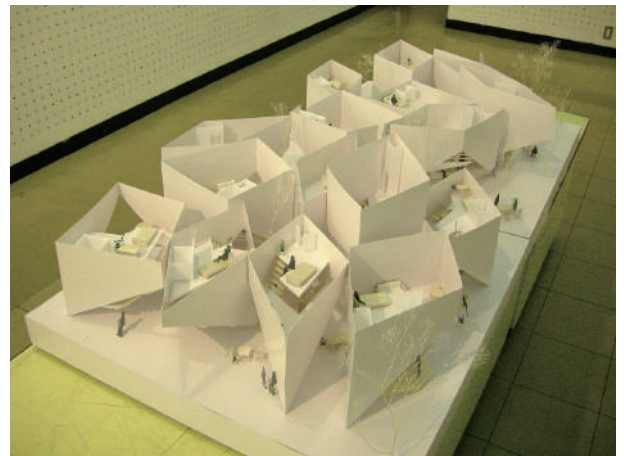
優秀賞 大塚 隆平 共栄学園短期大学住居学科  
Selt Organization

インターネット等の普及によってインターネットの中でのコミュニティは作れるようになった。しかし、このリアルな世界でコミュニティは成功していない。このようなコミュニティをデザインという仕事を共通とした、コミュニティ作りを集合住宅で表現する。



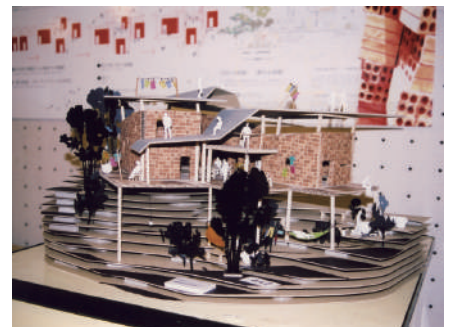
審査員特別賞 森田 真 東洋大学工学部建築学科  
境界という見えないカベ

壁だとかガラスといった、存在し見えるものではないが、その先へ他人を寄せつけない、不確かな場所となっているヒトの境界。  
この一定の気配のみを共用部へと露出させることで、ヒト範囲を理解した上で、なかにいるヒト同士に知り合うキッカケを与え、集合住宅という一つの建築のなかの community を広げていく。



審査員特別賞 秋山 友里 東京理科大学工学部建築学科  
建築の手紙 一蟻の巣住宅 暗黙の法則一

私は、2007年夏に、1ヶ月間、カンボジア・プノンペンのSamaki271という集落で生活をした。そこでの住民の生活は多様であり、これを使って、新たな住空間を追求するための、ある「思考実験」をしたい。本設計では、自然が生み出した究極の合理的な住宅「蟻の巣」に着目した。そこには、蟻世界の暗黙の法則一〈蟻のもつ微妙な距離間〉〈蟻の踏分け道〉がある。そこでSamaki271の暗黙の法則とは？思考実験1では、「相互扶助」「オープンスペースの共有」を用いて人の集まりの強弱を表現し、新たな住戸配置を、思考実験2では、「連なる屋根」「住戸」「デッキ」「水路」を用いて、セルフビルドのできる新たな住宅の在り方を計画した。



審査員特別賞 堀内 翔 東京理科大学工学部Ⅱ部建築学科  
大 ⇄ 中 ⇄ 小

敷地を囲む塀、床から天井いっぱいになった壁、頑丈な鍵のついた鉄の扉。現在の多くの集合住宅は共用部分と専用部分だけで成り立っていて、人と住宅と街は強い境界によってお互い関わりが薄い状態で存在している。物騒な世の中、いかにして他人と関わり、身を守っていくか。このような環境の中、他人と暮す意味はないのだろうか。

いや、今だからこそ集合して暮す意味があるのではないだろうか。

考えてみると人間は、地面、空気、太陽、水等、様々なものを共有し、それぞれが所有して生きている。最近そんな当たり前のことを人は忘れかけてしまっているように感じる。住環境において家の前の道や、住戸の前の廊下などは皆で共有し所有すべきものであるが、現状では共有するものでしかなくなっている。なんとか人と住戸と街の間に存在する境界を壊せないだろうか。

「個人空間かと思ったら実は共有空間だった」「共有空間かと思ったら実は個人空間だった」

というように人⇄住戸⇄店舗⇄庭⇄下北沢という連鎖をつくりだす設計を心がけた。

